

「今月の御言葉」(石城山版 友清歎真全集より)

「かみはみてをる」の神示を よく噛みしめることが何よりです

友 清 歎 真

あと二十分で世の終りが来るとしたら、あんたは今から何をするかといふ質問、「すぐ何も彼も放下して告白所へ飛んで行って、さんげする」とか「直ちに一心不乱の祈りをつづける」とか、いろいろの応答がありさうですが、なにがしの少年聖者は「この球遊びをつづけるさ」と答へました。このことが深くシャルル・ペギーを感動させました。必ず神から救はれるといふ確信のあるもの、否な、つねに救はれてゐるといふ明白な自覚のある人なら、かくあるべきであります。球遊びをやつてゐる少年は、球遊びをつづけるまでであります。それその立場に於て、平然として、つとむべきをつとめるまでであります。三年後に世界が一応無茶苦茶になると仮定しても、今から勉強もせず、しごともせず、節約もせず、道義も守らず、飲みたいだけ飲むといふのでは動物以下であります。幽顕不二、いつも正直で、勤勉で、道義的で、人生を楽み、遊びもする。そのほかに何がありません。今生に蓄へた金銭が来世の役には立ちませんが、善行や徳行は勿論、学問も技芸も、趣味も、そのまま殆ど運ばれて行くこと、昨日と今日とのごとくであります。「この秋は雨か風かは知らねども今日のつとめに田の草をとる」といふ江戸時代の道歌は、低調ではありますが、それが神の道であります。

今のやうな世の中、くるしいのは誰も苦しいのです。「かみはみてをる」の神示をよく噛みしめることが何よりです。トロイア戦争の英雄オデュッセウスは、ギリシャ本国への帰途、一寸した油断に部下の或るものがアイオロスの風袋を解いたことを知ったとき、絶望的な驚きを感じ海水へ投身しようとして、わづかに思ひとまり、そのとき彼は自分自身の魂ひへ厳肅に言ひ聴かせました。「これも忍耐するんだ、もつとまだつらいことも我慢して来た俺ではないか。」と。斯うしたことは殆ど今日のすべての人々の身の上にもあります。ギリシャといへば直ちに私たちは美と調和との世界を睨にゑがきますが、ひとり此の英雄に限ったことでなく、そのころのギリシャの人々にも苦悩も忍従もありました。それが人間の世界の姿です。「かみはみてをる」の神示をもつと深く、真剣に考へなければなりません。憲法と女房と泥坊との三ぼうではやつて行けません。どうしても憲法と女房と辛抱との三ぼうで祖国再建に努めねばなりません。誰もが常に例外無しにトロイアの帰途にあるのです。あなたのアイオロスの風袋が駄目になつても、あなたが本当に「ひとつの心」で真剣な信念を有せらるるならば、神さまは素晴らしい風袋をあなたのために用意して居られます。

アイオロスの風袋